

松葉屋通信

matubaya-tushin
vol.14 2010.12.10

百年家具

「世界が恋する一九二〇年代」

という特集の、芸術新潮を持っていました。

第一次大戦が終わって、

一九二九年の世界恐慌が始まるまでの、

つかの間の平和がおとづれた十年間。日本では大正も末期。

アールデコが生まれ、街にはモボモガが闊歩した、

騒がしくて活気に満ちた、

「ローリング・トゥエンティ」。

そんな時代に松葉屋が作ったテーブルを、

最近、補修する機会をいただきました。

店主もはじめて見る、83年前の松葉屋の仕事です。

長い年月を経た今も、

愛着を持っていただけていることのしあわせ。

「手をかけ、目を配り、有り体に仕上げる」

松葉屋が目指す「百年家具」を、

実感できた仕事でした。



1833年に創業した松葉屋の、
これは1920年頃の様子。

長野県 須坂東高等学校

さま



↑木目も美しくあらわれた修理後のテーブル。
奥の小さいテーブルは、復刻デザインで新しく作りました。



↑修理前のテーブル。塗装もはがれたりしているけれど、「毎日、拭いてもらっているんだなあ」と、嬉しく感じる事ができました。



3



1

- ①②同時に作られた衝立て。アールデコとフランク・ロイド・ライトの家具デザインとをミックスしたような装飾。
- ③テーブル脚のデザインも同様。
- ④「松葉屋」のプレート。このプレートが時間をつないでくれました。



4



2

「百年家具」を掲げる松葉屋としてうれしい依頼が昨年末にありました。「昭和2年のラベルと松葉屋のプレートが貼ってある家具がある。修理したいので、相談ののつてもらえないか。」お話をいただいたのは、長野市の隣、須坂市にあり、創立92年の歴史ある高校の教頭先生からでした。



1



2

ただけたことは、本当にうれしい限りです。加えて、デザインや仕事に対する責任を表わしたプレートの存在も、松葉屋にとって大きな財産であることを再認識した仕事になりました。

緊張しながらも、まずは家具を見せようことに。今から83年前に先代で作った家具です。なんだか「ジン」としてしまいました。この家具は、絶対に松葉屋が修理する！」

百年家具といっても、何のメンテナンスもなく使い続けられるものではないかもしれません。些細な不具合が、修正できないばかりに処分される家具のなんと多いことか。

そんな現代の中で、こようやく使い続けていただけましたことや、さらに、これからも使い続けることができるように、修理依頼がいただけることか。

1〜5塗装を研磨して平らにし、突き合わせ面の歪みや材の乾燥縮みなどによる隙間を修正します。6地元の須坂新聞に掲載された記事です。



6



5



4



3

日本キリスト教団 本郷教会

さま

カナダ人宣教師が持ってきたと云われるエクステンション(伸縮式)テーブル。両袖を左右に引くと追加用の天板が収納されています。



もう一件、同じ頃に修理依頼をいただいたテーブルをご紹介します。エクステンションテーブルという、英国アンティーク家具でよく登場する伸縮式のテーブルです。

こちらは、およそ50年前にカナダから伝道のため来日した宣教師一家が持ってきたと云われるテーブル。松葉屋のある長野市大門町から2kmほど東北の住宅地にある教会からのお話でした。

日本キリスト教団長野本郷教会は、宣教師住居で地域の人たちにバイブルクラスや料理講習会等を行うことによって始められました。宣教師帰

国後も日曜日の夕礼拝や教会学校、聖書研究会が続けられ、1994年本格的に長野本郷教会として設立されました。以後、幼稚園舎や古い宣教師館で礼拝をしましたが、昨年

11月教会堂の新築が機会とな

って、長い間宣教師館で使われていたこのテーブルも、新しく生まれ変わることになったのです。



テーブルと同年代と思われる椅子。



①テーブルの側面。板の突き合わせ部分に浮きなども見られます。②特徴的テーブル脚。③天板の上層がはがれています。④はがれてしまった天板上層部をすべて削り落とします。⑤削り落とした分、あたらしい天板を貼り合わせます。脚部も再塗装のため研磨します。



修理完成したテーブルは、あたくし建てられた教会のエントランスホールに運び込まれました。明るい光の中で、独特の落ち着きを見せています。

■日本キリスト教団 長野本郷教会
長野市三輪3-10-11 ■<http://www.church.jp/hongou/>

百年家具



好評貸出中!

まつの文庫

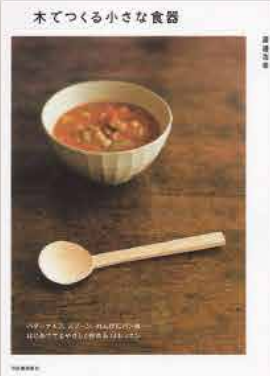
New Books Information!

木のカタラーリやうつわ
手に馴染む、ちいさな道具たちのものがたりを集めました



木の匙
三谷龍二

「僕は匙のような、小さな働きものが好きだ。大きな声で主張するような目立つ存在ではないけれど、でも他では代用できない自分の役割をちゃんと世の中に持っている。」という、木エディタナー三谷さんの、その言葉を体現しているかのような暮らしが伝わってくる1冊。



木でつくる小さな食器
渡邊 裕幸

「自分の手にあった木の小さな食器を作りたい。」そんな人のために用意された14のレッスン。1ページ、めくる毎に「こんな感じで作ってみたい」と、心が動きます。メンテナンスや木の特徴などの解説もわかりやすく、図案もとても参考になります。



手づくりする
木のカタラーリ
西川 栄明

木でつくられたカタラーリ、器、箱など26人の木工作家が考えた約300作品を紹介しています。木のうつわに納まったごはんが、ものすごくおいしそう!。木の食器を使うことの意味が、理屈でなく、わかるような気がします。

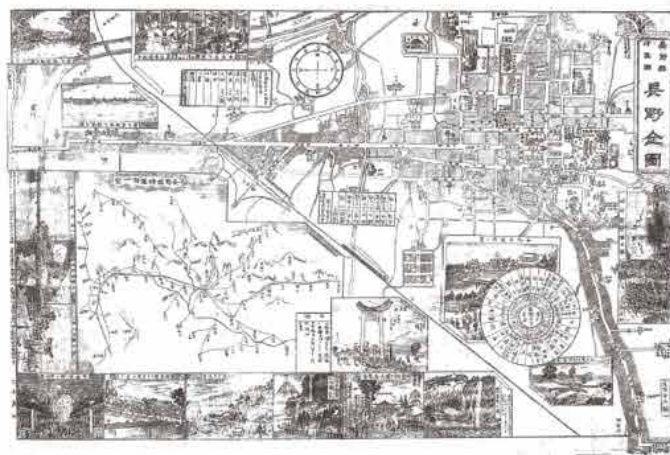
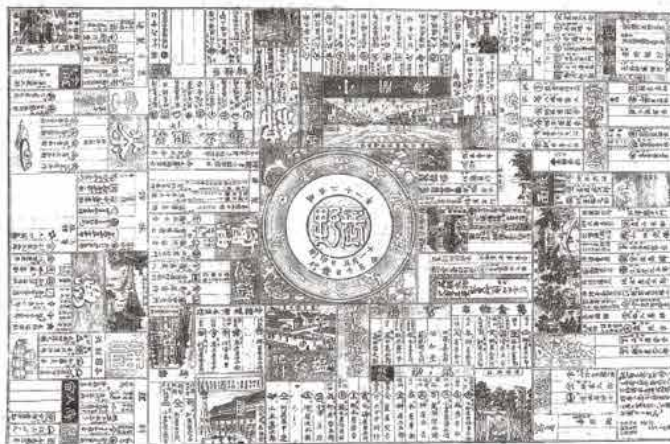
松葉屋の蔵で、ちょっとおもしろいものを見つけてしまいました。→『長野商人一覽』なるものです。発行は今を遡ること122年前の明治21年(一八八八年)、明治憲法発布の前年です。裏面は長野全図となっていて、道路・鉄道に加え、名所旧跡も紹介されています。こちらのチラシのコピーを、ご興味のある方にお分けしたいと思います。(松葉屋の梓、探してみてくださいね。)

下記の連絡先までお問い合わせください↓
(限定30部を)ご用意しております。

松葉屋家具店+くらし道具学研究所
〒380-0841 長野市大門町45
since1833@matubaya-kagu.com
TEL 026-232-2346
FAX 026-237-4558

(木曜定休)

© 松葉屋家具店+くらし道具学研究所
Copyright ©2010 Matubayakaguten Co., Ltd.
All rights reserved.
Design&Text * kai+pan



◆ 長野商人一覽十長野全図 一八八八年編